

新たに透析診療を開始されました施設のご紹介

医療法人 社団信成会 内科阿部医院

大分県大分市中春日町16-13 TEL 097-538-1633

院長
阿部 克成



1. 私のプロフィールと透析治療に関わるようになった経緯

私は平成3年に長崎大学を卒業し、当時の長崎大学第二内科に入局しました。第二内科は、呼吸器感染症内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科からなる総合医局で、2年間の研修を終えた後、腎臓内科へ進みました。腎臓内科入局後は大学院に進学し、4年間にわたり、IgA腎症をはじめとする慢性腎炎などの腎臓病について研究しました。大学院修了後は平戸市民病院で透析室の立ち上げに携わり、その後、英国ロンドンのGuy's and St. Thomas's Hospitalに留学しました。留学先では腎炎および腎移植の研究に従事し、帰国後は長崎市内の透析病院や大学病院に勤務して、糖尿病関連腎臓病や腹膜透析の臨床・研究に取り組みました。2008年に大分へ戻ってからは、大学病院での経験を活かし、糖尿病と腎臓病の診療を続けてまいりました。長年、糖尿病診療に携わる中で、糖尿病から透析導入に至る患者さんも少なくありません。透析導入後も内科阿部医院で継続して治療を受けていただける体制を整えたいとの思いから、このたび透析センターを開設しました。

2. 当院における透析診療について

当院は透析診療を開始して間もないため、現時点では透析患者さんの数は多くありません。しかし、内科阿部医院に外来通院されている保存期腎不全の患者さんが、将来透析導入となった場合にも、引き続き当院で治療を受けていただける体制を目指しています。透析導入となる患者さんの中には、糖尿病を原疾患とする方が多いことが想定されます。内服薬、インスリン、GLP-1製剤などの糖尿病治療薬を適切に用いて血糖管理を行うとともに、血圧の変動などにも十分配慮しながら、透析条件をきめ細かく調整していきます。患者さんの負担をできるだけ軽減しながら、質の高い透析治療を継続できるよう努めてまいります。診療体制としては、透析指導医・透析専門医2名、透析専属医1名、糖尿病専門医1名が常勤で勤務しています。また、大分大学の循環器内科、消化器内科、糖尿病内科から非常勤医師にも勤務いただいております。大学病院の各専門分野と緊密に連携しながら診療を行っています。さらに、透析専属の臨床工学技士と看護師を配置し、患者さん一人ひとりに寄り添える体制づくりを進めています。



透析室



透析センター

3. 感染症対策について

当院では、感染症が疑われる患者さんにも対応できるよう、感染症患者さん専用の透析室を設けています。来院時には、発熱や感冒症状、体調不良の有無などを確認し、必要に応じて検査を行います。ウイルス検査などで陽性が確認された場合には、専用の感染ルームで透析を行う体制を整えています。

4. 高齢化する透析患者さんについて

透析患者さんの高齢化に伴い、フレイルや筋力低下による転倒・骨折、心不全の合併、定期的な通院の負担などが、今後ますます大きな課題になると考えられます。当院では、今後、透析中のリハビリテーションにも力を入れていきたいと考えています。心不全への対策としては、循環器内科医による定期的な診察に加え、適正なドライウェイトの設定と継続的な見直しなど、きめ細かな透析診療を行ってまいります。また、高齢化に伴い、通院時の送迎を必要とする患者さんが増えることも予想されます。当院でもすでに送迎を開始していますが、現時点ではすべての患者さんに対応できる体制には至っていません。今後、より多くの方に利用していただけるよう、送迎体制の充実を図っていききたいと考えています。

5. 大分県腎臓病協議会へ

大分県全体において、腎臓病協議会と透析施設とのさらなる連携が必要だと感じています。医療費の問題や災害時の透析対応など、さまざまな課題について情報を共有し、ともにより良い方向を目指して取り組んでいければと考えています。

6. 当院のこれから

当院は6月29日に新築オープンしました。

今後、当院では次の3つを柱として透析診療に取り組んでまいります。

1. 患者さんが納得できる、信頼性の高い質の高い透析治療の提供

- 穿刺から透析開始まで、できるだけお待たせしないよう努める
- 検査結果を迅速かつ分かりやすく説明する
- 透析効率を適切に評価し、治療内容の改善につなげる
- 患者さんが気軽に話しかけられる雰囲気をつくり、一人ひとりの声に丁寧に耳を傾ける

2. エビデンスに基づく透析治療の実践

- 最新の知見やガイドライン、検査、薬物療法などを日々の透析診療に活かす
- 常に新しい知識と技術を取り入れ、より質の高い透析医療の提供を目指す

3. ご家族との双方向のコミュニケーション

- ご家族とも積極的に情報を共有し、患者さんが安心して療養生活を送れるよう支援する
- ご家族からの相談や希望にも丁寧に耳を傾け、双方向のコミュニケーションを大切にする

これらを大切にしながら、日々の透析診療に取り組んでいきたいと考えています。当院では、最新の透析技術や治療薬を活用できる設備とスタッフ体制を整えています。患者さん一人ひとりに寄り添い、できるだけ負担が少なく、安心して受けていただける質の高い透析治療を提供できるよう努めてまいります。

今の治療を大切にしながら、 これからの治療を考える

～腹膜透析と腎移植という選択肢～

医療法人社団信成会 内科阿部医院
看護師 成瀬 綾



「透析を始めるときに、血液透析以外の治療について詳しく説明を受けましたか？」講演の中で会場の皆さんにこのような質問をすると、「十分に説明を受けた」と手を挙げられた方は多くありませんでした。

私は内科阿部医院で、腎代替療法専門指導士、腎臓病療養指導士、そしてレシピエント腎移植コーディネーターとして、慢性腎臓病や腎移植後の患者さんを支援しています。日頃から多くの患者さんと接する中で、「血液透析しか選択肢がないと思っていた」という声を耳にすることがあります。

末期腎不全の治療には、血液透析だけではなく、腹膜透析や腎移植という選択肢があります。そして現在は、患者さんご家族、医療者が一緒に考えながら治療を選択する「共同意思決定 (SDM)」が大切にされています。年齢や病気だけでなく、仕事や家庭、趣味、これからどのような生活を送りたいかという一人ひとりの思いも、治療法を選ぶ大切な要素になります。

腹膜透析は、ご自宅で行う透析療法です。お腹の中の腹膜を利用して、毎日ゆっくりと老廃物や余分な水分を取り除くため、体への負担が少なく、血圧が安定しやすいことが特徴です。また、厳格なカリウム制限がないため、果物など食事を楽しみたい方にも適した治療法です。通院は月1～2回程度で、自分の生活リズムを大切にしながら、仕事や旅行を続けている方も少なくありません。近年では、医療機器や透析バッグの進歩により操作も大きく簡便化し、夜間に機械が自動で透析を行う方法も普及しています。ご家族や訪問看護師などの支援を受けながら、より安心して自分らしい生活を送りながら治療を続ける方も増えています。

腎移植には、ご家族などから腎臓の提供を受ける「生体腎移植」と、亡くなられた方から善意によって提供された腎臓を移植する「献腎移植」があります。それぞれ条件や適応は異なりますが、まず大切なことは、自分にどのような可能性があるのかを知ることです。

透析歴が長くても腎移植を受け、その後何十年にもわたり元気に生活されている方は決して珍しくありません。私が勤務する外来でも、60名以上の腎移植後の患者さんを継続して診療しており、中には10年以上透析を続けた後に移植を受け、その後20年、30年以上、移植した腎臓とともに生活されている方もいらっしゃいます。

もちろん、腎移植はすべての方が受けられるわけではなく、生涯にわたる免疫抑制薬の服用や定期的な通院が必要です。しかし、「透析歴が長いからもう遅い」と諦める必要はありません。患者さんの状態によっては、長期間透析を続けた後でも、腎移植によって新たな生活を送ることができる可能性があります。

大切なのは、早い段階から自分が移植の対象になるのか、どのような選択肢があるのかを知り、医療者に相談することです。

また、腎代替療法は一度選んだら変更できないものではありません。腹膜透析から血液透析へ、あるいは透析から腎移植へと、病状や生活環境に合わせて治療法を見直すこともできます。その時々自分に合った治療を選択していくことが、長い治療生活ではとても重要です。

講演後には、「腹膜透析について初めて詳しく知りました」「移植という選択肢を改めて考えてみたいと思いました」と声をかけてくださる方もおられました。その一言一言が、とても印象に残っています。

今回の講演を通して私がお伝えしたかったのは、「どの治療法が一番良いか」ではなく、「自分らしく生きるためには、どの治療法が自分に合っているのか」を考えることの大切さです。

今、血液透析を受けている方も、これから治療を考える方も、まずはそれぞれの治療法を知ることから始めてみてください。そして疑問や不安があれば、遠慮なく医師や看護師、腎代替療法専門指導士などの医療スタッフに相談してください。納得して選んだ治療は、きっとこれからの生活を支える大きな力になるはずです。

